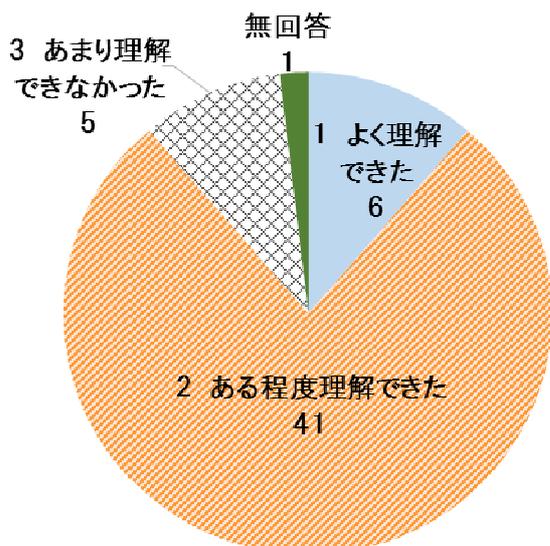


島田市公共施設マネジメント職員研修会 アンケート結果

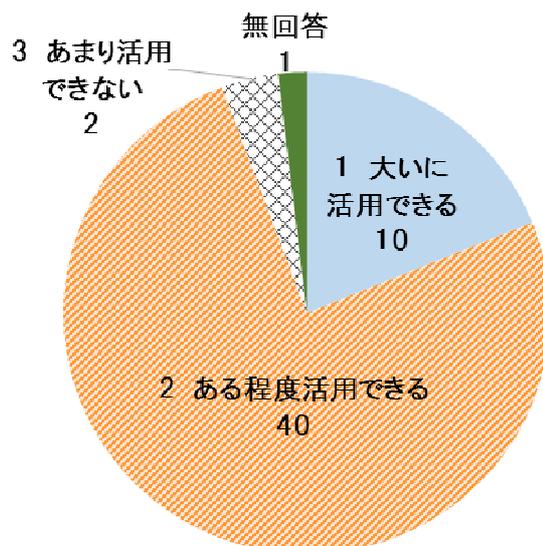
1 回収数 53件

2 回答内容

問1 研修の内容は、どの程度理解できましたか。



問2 研修の内容は、あなたの担当する業務の見直しや、市の仕事全体に対する考え方を見直しに向け、どの程度活用できそうですか。



問3 流山市の寺沢氏の講演は、いかがでしたか。

<ul style="list-style-type: none"> ・良い話でした。 ・時間の中で講演するテーマが広すぎるので、しぼったテーマをききたかった。 ・「島田市」が今実施しようとしていることを、一度立ち止まって方向等を再考すべきです。 ・市外、民間業者をもっと利用すべきです。
数々の先進事例の紹介があり、大変勉強になりました。
FM等の民間活力を導入し、効率の良い資産管理が必要と感じました。事例を上げて説明していただき、理解しやすかったです。
発想力や行動力がすばらしいと思いました。
民間事業者ともっと連携し、相手ももうかる、市民サービスが上がるという関係に築けるような可能性を感じました。
各事業の細かいスキームまでは理解しきれませんでしたでしたが、市の将来のために今できることを本気で考えた結果、様々なPPPに取り組みされていることが分かりました。
こうした事例や方法をどのように島田市で取り入れていくのが大変重要だと感じました。
自由な発言とそれを承認できる庁内文化がイメージできた。組織改編
良かったが難しかった。(レベルが高かった。)
公平性が市内業者に限るものではないと思った。
考え方を変えていかなければいけないなと思ったが、自分に何ができると考えるとよくわからない。
提案制度で民間の知恵を借りるというのはとてもよいと思うが、島田市でも同じように募集して東京のベッドタウンで人口も増加している流山市のように応募が集まるのだろうかと思ってしまう。
先進の事例をきくことができよかった。
寺沢氏の力量も素晴らしいが、副市長というキーパーソンの存在が大きい。
島田市として実践できるかは疑問
<ul style="list-style-type: none"> ・交付金や補助金の要綱と整合が取れるか？ ・島田市に魅力を感じて実現性のある提案をしってくる民間企業はあるか？
全く飽きずに聴くことができる内容であった。
とても楽しいお話ありがとうございました。
すごい人ですね。
今まで考えたことのないアイデアのお話を聞くことができました。

<p>FM施策という中で、様々な事業に取り組んでいることにびっくりです。 流山市の企画担当や庁舎管理担当とはどのような関係になっているのでしょうか。</p>
<p>大変興味深く拝聴したが、東京のベッドタウンで、この10年間で2万人も人口が増えている自治体とは、取るべき可能な手法も、描く将来像も違うと感じた。 また、成功例ばかり提示されたが、失敗例や問題はなかったのかと感じた。</p>
<p>良かった。</p>
<p>社会教育委員として参加させていただきました。みんなとちょっと立場が違いましたが、大変おもしろい話だと思いました。もう少しゆっくりした話し方だと、もっと分かりやすかったと思います。事例に基づき、視点をしっかりとらえてみるということ、参考になりました。 「時間が限られているので、いそいでください」という言葉ではじまる研修はさみしいですね。大事な研修なので、それこそアイデアをもって進行することが必要だと思います。また、このような機会であるからこそ、みんなの意見を聞きたかったなあと思いました。</p>
<p>大変有意義な講演を行っていただき有難うございました。 ファシリティマネジメント（FM）の先進的な事例を数多く紹介していただきとても参考になりました。 市民病院は建て替えを控えています、出来上がった建物を長期間健全な状態に保つためにFMの活用はとても重要であると感じました。これからFMについて学び、準備していきたいと思います。 流山市は民間の知恵を活用するためにプロポーザルを多く行っているようですが、島田市の場合はプロポーザルを行う環境がまだ整っていないと思います。流山市のようなスタイルをとろうとするのであれば、簡単にプロポーザルを行える環境の整備をお願いします。</p>
<p>見方を変えるだけでこんなに結果が違うのかと、とても参考になる講義でした。 『FMは、FM担当室だけが本気になってやるのではなく、業務の担当課も本気にならなければうまくいかない』という言葉が印象的で、将来的には、庁舎内だけでなく民間業者・市民も含め、共通言語にならなくてはいけないと感じました。 今回の講義をきっかけに、今まで行ってきた業務に対する考え方や方法を見直すと共に、今後の業務の参考にしようと思います。</p>
<p>大変多くの事例を紹介していただき、多方面で活躍されていることが伺われた。 市全般として参考となる事例もあり、多くの職員に知ってもらい良い機会だったと思う。 事業は主管課ではなく、1課による担当制でノウハウが構築されており、さらに手法を改善しやすい体制となっている印象をうけた。 人口減少の時代に、需要が多い東京のベッドタウンとして今なお人口増加を続けている都市と同様のことはできないが、その市でも危機感を持っていることを肝に銘じ、問題を先送りしない（政治的）決断が必要な時期にきていると強く感じた。</p>
<p>寺沢室長の話は、理解しやすいものであったと感じました。 但し、流山市は、自治体として勢いもあり、人口減少が見込まれる当市とは状況が相違するようにも思いました。 市長の言っている「稼ぐ。」という意味が実感できました。</p>
<p>途中で退席しなければならなかったのですが、とても残念な思いで退席しました。最後まで聞きたかったと心底思いました。 清水エスパルス、FedEx、夕張市、長崎市長など具体的な事例が盛り込まれていて、とてもイメージしやすかったです。 肝要な公共施設マネジメントに関する部分は十分聞けなかったのですが、録音があれば聞かせていただきたく思います。</p>
<p>様々な事例の紹介があったが、各事業の参考とした他自治体の計画なども併せて掲載されていたので、理解しやすかったです。 地域性もあると思うので、何でもそのまま島田市で取り組める事業ばかりではないと思うが、うまくアレンジして形にしていけたらいいのではないかと思います。小さいことでも、日々の業務の中で何か改善できるものはないか考え行動に移していくこと、職員一人一人が意識を変えていくことが大切であると改めて感じました。 公共施設に関しては、施設がもつ地域社会での役割や住民とのつながりがどうなっているのか、机上の調査だけではなく、各地域に入ってみないと分からない問題も多いと思うので、合意形成を図りながら適正化を推進していくためには、やはり体制の整備などが課題になるのだらうと思いました。</p>
<p>公共施設マネジメントというと、人口減少に伴う総量削減という先細りのイメージが大きかったが、「これからの暮らし方をどのように作っていくのか、そのために施設がどのようにあるべきか」を考えることと聞いて、プラスのイメージに変わった。ありがとうございました。</p>
<p>公務員的な発想にとらわれずに考えて、それでもわからないところは民間に知恵を借りる、ある意味の潔さに感銘を受けた。財政規模や人口規模の差を考えると、流山市と全く同じことが島田市でできるとは思わないが、真似すれば大幅な効率化が望めそうな話がたくさんあった。是非、真似できることは真似をして、公共施設の管理に役立てたいと思う。 ただし、島田市にも「公有財産管理室」のような専門部署を配置して、強力にリーダーシップをとっていくことができれば、なかなか前進しない話だとも感じた。市長はじめ役職者が本気で取り組む決意をして、職員がそれを理解して本気で取り組み、さらに市民の理解を得ていく、というプロセスを踏まなければならないことを考えても、専門部署の設置は必須だらうと思う。</p>
<p>仕事の都合により、講演途中での退室となってしまいましたが、今後行政に振りかかる、公共施設の膨大な更新費用について大きな課題であると再認識しました。取組としては、公共施設の数をただ減らせばいいというわけではなく、岩手県紫波町のように「稼ぐインフラ」とすることで、住民サービスの質を下げずに、公共施設を維持していく手法も島田市で実践していく必要があると感じました。</p>

- ・感想として、数多くの取組みに圧倒されました。
- ・こういった取組みの発想は、事例を知ることによって広がって行くと思うので、多くの職員に知っていただけたらと思います。
- ・最終目的をシンプルに捕らえ、柔軟な考え方でそこへストイックに向かっていくことが重要だと思いました。

とても講演の内容が分かりやすく夢中で講演を聞いてしまいました。

今後は担当する業務の改善に向けて活用していきたい。

また、これからは部課間を超えた方式で業務を行っていかねばならないとも思いました。

1時間半ほどの講演、非常に興味深くお話を聞かせていただきました。

東京近郊に位置する流山市と島田市とでは、講演の中でもありましたが人口の増減動向や民間企業の持つノウハウや数なども違いがあり、当然にそのまま活用できるわけではないと思いますが、民間のノウハウを活用した施設管理コストの縮減、さらに縮減した経常的コストを活用した設備投資、また不採算となる分野と採算性の上がる分野を一括発注するバルクの手法など当市においてもその考え方は大変参考になる事例だと感じました。

貴重なお話を聞く機会をいただきありがとうございました。

エピローグで取り上げられていた「ねりまこども食堂」のお話、寺沢さんは「上手く話すことができませんが…」とおっしゃっていましたが、「公共」の担い手はいったい誰なのか？ ということを痛切に感じました。

行政経営全体を考えると、戦後まもなく作られた法体系のもと、多少の制度変更はあったにせよ、基本的には高度成長期を経て現在に至るまで、大きな考え方の転換はないままに営まれています。これからは（というか既に）それでは立ち行かなくなっているということだと思います。

今後、行政課題がますます複雑化する一方でヒト・モノ・カネといった行政資源がかつてないほどに限られてくると想定される中、ご紹介いただいたような既成概念にとらわれない取組の一つ一つが、民間とも連携しつつ組織全体をいかに維持していくかという「自治体マネジメント」の考え方につながっているのだと理解しました。

今後の行政のあり方を考える上で大変参考になるお話をいただき、ありがとうございました。